

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所Wao!		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 15日		～ 2024年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2024年 10月 20日		～ 2024年 11月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・細かい情報共有。	・訪問ができない月があったとしても、電話で園の様子を聞き取り、Wao!でのあわれを伝えている。 ・園の先生が取り入れやすい手立ての方法を提案させていただいている。	・引き続き、保育所や幼稚園の先生が取り入れやすい手立ての方法を提案していく。 ・担任の先生と支援員では連携は取ることができているが、園としての引き継ぎが必要。
2	・毎月、訪問内容を書面にて保護者にお渡しし、併せて口頭にて説明・報告をさせていただいている。		
3	・療育との連携を図ることができ、個別支援の強化ができる。	・訪問させていただいた翌日には職員全員に周知できるようミーティングで報告し、療育での支援に繋げている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・こども園に受け入れを拒まれる。	・受け入れる園や学校側の保育所等訪問支援についての認識が低い。 ・理念や認識の違い。	・保育所等訪問についてこども園や学校にその意義や価値、必要性の理解を得る様に市役所の障がい福祉課に相談していく。 ・保育所等訪問支援事業を広く、理解し取り組んでいける場を作り、協力連携の輪を広げていきたいと考える。
2	・保育所等訪問支援の目的とメリットが正確に理解されていない。	・各機関の方針やプログラムの違いにより統一されたアプローチをとるのが難しい場合があった。	・保育所等訪問支援の目的や利点についてもっと広く正確な情報提供と理解の促進に努めていかなければいけない。 ・保育所等訪問支援事業の周知が薄いため、訪問当初の受け入れに戸惑われた園などあったが、取り組んでいく中で、協力、連携が図られ、子どもの支援にあたることが出来た。事業の主旨、内容、取り組み等を、学校、幼稚園、保育園に向けて、子どもの為の支援であることを理解してもらい、協力、連携を図り、子どもにとっての支援をしていく。 ・保育所等訪問支援事業を広く、理解し取り組んでいける場を作り、協力連携の輪を広げていきたいと考える。
3	・十分な数の支援員を確保することが難しい。		・訪問支援員の増員を目指す。